

## 【国語－１】

実践事例：小学校１年生 ／実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

文章を目で追いながら音読することが難しい。

声を出して発表することが難しい。

人前で話すことへの不安を抱いている。

個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。

指示の理解が難しい。

適切な速さで話すことが難しい。

単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をしたりする。

初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える。

句読点が抜けたり、正しく打つことができなかつたりする。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）

その他

##### (2) 子供の困難さ

見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと

コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること

落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること

学習（計算、推論等）すること その他

入学時、しりとりができなかった。音読も厳しかったが、通常の学級でみんなが繰り返し音読する声を聞き、覚えることで読みに慣れていった。それでも、初見の文章はたどり読みがやっとという状態であった。

言語概念や思考力に弱さがあり、算数でも特に文章題で全く理解できなかったことから、通級による指導で算数の内容を扱うこととなった。

#### 2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019年6月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

対象児童の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解URAWSSⅡ、②STRAW-R、③自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター、2011）、④ATLAN（適応型言語能力検査）、⑤TobiiX2-30R アイトラッカー（Tobii Technology 製）での視機

能評価、⑥DEM（眼球運動発達検査）という6種のアセスメントを教科指導法研究事業運営協議会のメンバーが実施した。

### 3. 指導内容

#### （1）教科における学習上のつまずきの内容

文章を読むとたどり読みはできるが内容理解はできない。

初見の文章はたどり読みがやっとと言う状態である。

#### （2）つまずいている背景・原因

視機能評価の結果より、眼球運動に難しさもあった。また、1文字ずつ読んでいる。STRAW-Rの結果より、文章を、正確に流暢に音読するのは難しい。

#### （3）（1）に対し実施した指導方法、工夫した点

##### （i）授業における全体指導、個への指導について

通常の学級において、実態把握で行ったアセスメントに基づくマルチメディア DAISY 教科書を提供し、活用した。

##### （ii）個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

眼球運動も苦手なので、行間も広くして、文章を読む練習をする。

文章を流暢に音読するのが難しいので、ハイライトの長さは、短めにして、スピードはゆっくり目にして、徐々にスピードを速くして練習した。正確に流暢に音読するのは難しいので、はじめは、大きな文字から始めた。

#### （4）（3）の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

マルチメディア DAISY 教科書を使うことで、読みや内容の習得がスムーズになった。テストでも自力で満点を取り、自信をもった。

通級による指導を開始した当初は、不安がいっぱいできないことがあるとすぐにすねてしまったが、マルチメディア DAISY 教科書で読んだりさまざまなトレーニングを行ったりと自信をもって笑顔で学習に参加するようになった。

たどり読みでも、「ぼく読めるよ。」と言っていたが、マルチメディア DAISY 教科書を活用するとさらに上手になり楽しそうに読めるようになった。

## 【国語－２】

実践事例：小学校２年生 ／実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

文章を目で追いながら音読することが難しい。

声を出して発表することが難しい。

人前で話すことへの不安を抱いている。

初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える。

文章の要点を正しく読みとることが難しい。

読みにくい字を書く。(字の形や大きさが整っていない。まっすぐに書けない)

漢字の細かい部分を書き間違える。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

自閉症 情緒障害 LD (学習障害) ADHD (注意欠陥/多動性障害)

その他

##### (2) 子供の困難さ

見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと

コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること

落ち着くこと・集中すること 概念(時間、大きさ等)を理解すること

学習(計算、推論等)すること その他

ひらがな、カタカナを音から想起して正しく書く力が習得できていない。ひらがな文字を見て正確に書き写す力に弱さがある。

ひらがな、カタカナを流暢に音読するのは苦手である。

#### 2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019年6月

##### (2) 実態把握の方法(実施者・方法)

対象児童の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解URAWSSⅡ、②STRAW-R、③自尊感情測定尺度(東京都教職員研修センター, 2011)、④ATLAN(適応型言語能力検査)、⑤TobiiX2-30R アイトラッカー(Tobii Technology 製)での視機能評価、⑥DEM(眼球運動発達検査)という6種のアセスメントを教科指導法研究事業運営協議会のメンバーが実施した。

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

文字を思い出して書くことに時間がかかる。

漢字テストで漢字を思い出して書いたり、作文を書いたりするときに時間がかかる。

#### (2) つまずいている背景・原因

STRAW-Rの結果から、文字と音を対応させる速度や正確性に弱さがある。また、単語の意味を読み取り文全体の意味に統合する正確性と速度に弱さがある。音読のスピードも遅い。

本人によるアーレンシンドロームのチェックリストのよく疲れる項目として、①本を読むとき、②紙と鉛筆を使って活動をするとき、③白いチョークで書かれた黒板の文字などを書き写しているとき、④明るい光や電気の光で仕事をするとき、を挙げている。

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

通常の学級において、実態把握で行ったアセスメントに基づくマルチメディア DAISY 教科書を提供し、活用した。流暢に音読するのは苦手なため、スピードを遅くした。

##### (ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

マルチメディア DAISY 教科書による指導とともに、視線ゲームを取り入れ、ビジョントレーニングをした。

#### (4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

本人によるマルチメディア DAISY 教材の印象的評定によると①読むことが楽になった。②文章がわかりやすくなった。③文章を覚えやすくなった。④自分から、文章を読むようになった。と評価している。また、単語・非語・文章、全てで前回よりも流暢に音読できるようになり、速く書くことができるようになってきた。読みはマルチメディア DAISY 教科書を活用し、音-文字合わせを続けることで、書くときの文字-音合わせの力につながっていった。作文を書くこともスムーズになってきた。眼球運動は、指導前後で改善しており、難しさはなくなってきている。家庭で宿題をする習慣がついていないことも影響して文字想起に時間がかかるが、一生懸命に取り組むようになった。1年生で十分にマルチメディア DAISY 教科書を活用したことが効果的であり、楽しく読めるようになった。

### 【国語－3】

実践事例：小学校3年生 / 実施機関：国立大学法人大阪教育大学

#### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

聞き間違いがある。（「知った」を「行った」と聞き違える）

聞きもらしがある。

初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える。

文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする。

音読が遅い。

個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。

指示の理解が難しい。

話し合いが難しい。（話し合いの流れが理解できず、ついていけない）

適切な速さで話すことが難しい。（たどたどしく話す。とても早口である）

ことばにつまったりする。

#### 【指導例】

##### 1. 対象とした児童生徒の実態

###### (1) 対象の障害

自閉症  情緒障害  LD（学習障害）  ADHD（注意欠陥/多動性障害）

その他

###### (2) 子供の困難さ

見ること  聞くこと  話すこと  読むこと  書くこと  動くこと

コミュニケーションをすること  気持ちを表現すること

落ち着くこと・集中すること  概念（時間、大きさ等）を理解すること

学習（計算、推論等）すること  その他

読み課題が苦手であり、黙読で内容を把握するのは難しい。

文字と音を対応させる速度または正確性の弱さがある。

単語の意味を読み取り、文全体の意味に統合する正確性と速度の弱さがみられる。

頭の中で音を操作することが難しい。

内容理解が十分にできないことがある。

小2の平均程度の語彙力を持っている。

##### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

###### (1) 実態把握の時期

2019年6月

###### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

対象児童の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解URAWSSⅡ、②STRAW-R、③自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター、2011）、④ATLAN（適応型言語能力検査）、⑤TobiiX2-30R アイトラッカー（Tobii Technology 製）での視機

能評価、⑥DEM（眼球運動発達検査）という6種のアセスメントを教科指導法研究事業運営協議会のメンバーが実施した。

### 3. 指導内容

#### （1）教科における学習上のつまずきの内容

初見の文章ではたどたどしい読みになる。そのため、内容理解が十分にできないことがある。カタカナの流暢な音読と文章の読みと漢字も苦手である。黙読で内容を把握するのは難しい。

#### （2）つまずいている背景・原因

STRAW-Rの結果から、文字と音を対応させる速度または正確性の弱さがみられる。また、読み課題の結果からも、単語の意味を読み取り、文全体の意味に統合する正確性と速度の弱さがみられる。

#### （3）（1）に対し実施した指導方法、工夫した点

##### （i）授業における全体指導、個への指導について

通級指導教室において自分のペースで音読スピードを調整しながら読みの力を向上させた。単元の初めにはていねいにマルチメディア DAISY 教科書を活用して読み方を習得する。その上で語彙力をつけ、内容理解につなげた。

##### （ii）個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

マルチメディア DAISY 教科書を使用して、文字をかたまりで捉えて、読みすすめることで内容理解を目指した。

#### （4）（3）の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

本人によるマルチメディア DAISY 教材の印象的評価によると①読むことが楽になった。②文章がわかりやすくなった。③文章を覚えやすくなった。④自分から、文章を読むようになった。と評価している。自己認識が進み、単元の初めには自ら納得のいくまでマルチメディア DAISY 教科書を活用する姿がよく見られた。自信がつくと、「もう大丈夫。」と言い、学習を進めることができた。十分にマルチメディア DAISY 教科書を使うことで読める言葉が増えて、安心して学習する様子が見られた。

## 【国語－４】

実践事例：小学校４年生 ／実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

話の要点に気を付けて聞くことが難しい。

筋道を立てて話すことが難しい。

自分の考えをまとめて書くことが難しい。

物語文を読むことに興味が乏しい。

ローマ字表記の読み書きが難しい。

場の雰囲気を読めない。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）

その他

##### (2) 子供の困難さ

見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと

コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること

落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること

学習（計算、推論等）すること その他

- 文章の読みが逐次読み。
- 板書・視写が難しい。
- 漢字の読み書きが難しい。
- 漢字の形を正確に覚えるのが難しい
- 文字がノートのマス目や枠に入らない。
- 場の雰囲気が読めない。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019年6月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

対象児童の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解URAWSSⅡ、②STRAW-R、③自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター、2011）、④ATLAN（適応型言語能力検査）、⑤TobiiX2-30R アイトラッカー（Tobii Technology 製）での視機能評価、⑥DEM（眼球運動発達検査）という6種のアセスメントを教科指導法研究事業運営協議会のメンバーが実施した。

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・文章の読みが逐次読み。
- ・板書・視写が難しい。
- ・漢字の読み書きが難しい。
- ・漢字の形を正確に覚えるのが難しい
- ・文字がノートのマス目や枠に入らない。

#### (2) つまずいている背景・原因

STRAW-R 中にある、絵や数字を答える課題(RAN 課題)について、苦手さが見られたため、文字の再生に困難が見られるようである。

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

2017年9月よりマルチメディア DAISY 教科書(国語)を通級学級と家庭で活用する。

2018年10月より音声ペン(国語)を通常の学級と家庭で活用する。

教科書は家庭で母親がルビうちし、代読する。

国語の教科書はマルチメディア DAISY 教科書を利用したり、音声ペンを利用したりして、音読の負荷を低減して、内容理解につなげるように指導した。

漢字学習はタブレット端末を使用して正しい漢字を練習し、正確な形を確認して正しい漢字の読み書きができるように指導した。

ジオボードで漢字を再生することで漢字の形を想起させるように指導した。

管理職・保護者・本児・校内支援委員会で承認を受け、担任がクラスの子供の同意を得て、音声ペン・タブレット端末を利用したテストを受けた。

##### (ii) 個別指導について(取り出し指導、通級による指導との連携など)

ビジョントレーニングとして、パソコン・ジオボードを活用し、追従・跳躍・視知覚・注視の訓練を行った。漢字学習として、読み・形・意味の同時入力をし、タブレット端末の筆順アプリやジオボードを活用した。集中トレーニング(聞く・見る)と言語理解・思考力を高めるトレーニングなどを行った。通級指導教室ではマルチメディア DAISY 教科書で音読している。紙媒体の教科書には、母親が漢字にルビをつけている。

#### (4) (3) の効果・評価(児童生徒の様子や変容および授業の評価)

情緒が安定し、頭痛・腹痛を訴えなくなった。テスト時の配慮(音声ペン・マルチメディア DAISY 化)に少し慣れてきた。漢字まとめテストの結果は、1学期(35点)2学期(52点)3学期(70点)であった。漢字まとめテストは70点が目標だったので3学期の結果は本人的にはとても満足だった。



## 【国語－５】

実践事例：中学校１年生 ／実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・話の要点に気を付けて聞くことが難しい。
- ・筋道を立てて話すことが難しい。
- ・漢字を覚えられない、正しく書くことが難しい。
- ・送りがなに注意して書くことが難しい。
- ・文法の理解が難しい。
- ・接続詞のある文章を書くことが難しい。
- ・自分の考えをまとめて書くことが難しい。
- ・物語文を読むことに興味が乏しい。
- ・ローマ字表記の読み書きが難しい。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと  
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること  
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること  
学習（計算、推論等）すること その他

ひらがなは読めるものの、正しく書くことは困難である。カタカナや漢字は読みの習得もできていないので、書くことも困難である。本人も書くことに苦手意識を持っている。聞くこと、話すことは読むこと、書くことと比較してそれほど困難ではないため、文章の読み上げがあれば、ある程度文章の内容を理解することが可能である。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019年6月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

対象生徒の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解URAWSSⅡ、②STRAW-R、③自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター、2011）、④ATLAN（適応型言語能力検査）、⑤TobiiX2-30R アイトラッカー（Tobii Technology 製）での視機能評価、⑥DEM（眼球運動発達検査）という6種のアセスメントを教科指導法研究事業運営

協議会のメンバーが実施した。

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

カタカナ、漢字に対して読むこと、書くことも困難であるため、板書をノートに写すことが困難であった。また、ルビのついていない教科書を自ら読むことも困難であった。

#### (2) つまずいている背景・原因

STRAW-R の検査内にある RAN 検査の結果より、文字を音に変換することが非常に苦手であること、DEM 検査の結果より、眼球がうまく動いていないことが明らかとなったため、こうしたことが読み困難に関連しているものと考えられる。

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

「集中して話を聴き、内容を理解して自分の意見や考えを言葉で表現する」ことを目標として、全ての授業を通常の学級で受けた。教科書にはルビを振り、板書はタブレット端末で撮影した後、撮影した画像に要点を書きこんだ。

##### (ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

定期テストの際は、試験時間の延長、テスト問題の拡大とともに、教科指導法研究事業運営協議会のメンバー4名を中心に、定期テストをマルチメディア DAISY 化し、タブレット端末で再生することで、自らテストに取り組んだ。

#### (4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

指導開始当初は、授業中に板書を写すことやプリント学習に取り組むことがかなり遅かったが、指導時期の終盤の3学期には、タブレット端末を併用しながら、ノートに板書を写すなど、できることは積極的に取り組むようになった。また、内容を理解していることは、授業に挙手して発表できるようになった。定期テストは指導期間の中盤にマルチメディア DAISY 化したものを使って取り組んだものの、点数に大きな差はなかった。アセスメントによる読み能力は STRAW-R の読みの流暢性、正確性、視機能評価、ATLAN による語彙評価等について、指導前後で大幅に向上しているため、今後は読み能力を教科学習にどのように活用するか検討していくことが必要である。

## 【国語－6】

実践事例：中学校2年生 / 実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・話の要点に気を付けて聞くことが難しい。
- ・筋道を立てて話すことが難しい。
- ・漢字を覚えられない、正しく書くことが難しい。
- ・送りがなに注意して書くことが難しい。
- ・文法の理解が難しい。
- ・接続詞のある文章を書くことが難しい。
- ・自分の考えをまとめて書くことが難しい。
- ・物語文を読むことに興味が乏しい。
- ・ローマ字表記の読み書きが難しい。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症  情緒障害  LD（学習障害）  ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
 その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること  聞くこと  話すこと  読むこと  書くこと  動くこと  
 コミュニケーションをすること  気持ちを表現すること  
 落ち着くこと・集中すること  概念（時間、大きさ等）を理解すること  
 学習（計算、推論等）すること  その他

丁寧に字を書くことが難しいので、それに関係して直線を書くことも難しい。バランスも崩れてしまうので漢字を書かせると左右、どちらかが極端に大きくなる。マスを使用せず罫線だけのノートなどになると左に寄ってしまうこともある。マスも罫線もなにもないと字ごとの大きさもバラバラになってしまうこともある。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019年6月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

対象生徒の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解URAWSSⅡ、②STRAW-R、③自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター、2011）、④ATLAN（適応型言語能力検査）、⑤TobiiX2-30R アイトラッカー（Tobii Technology 製）での視機能評価、⑥DEM（眼球運動発達検査）という6種のアセスメントを教科指導法研究事業運営

協議会のメンバーが実施した。

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

漢字を書くことの困難に加え、文章問題を解くときのヒントとなる「字数指定」や「抜き出し」の意味を理解できていない。内容理解の問題について、出題者側の意図が正しく伝わりにくい。

#### (2) つまずいている背景・原因

STRAW-R の検査結果より、文字を音に変換することが苦手であること、DEM 検査の結果より、眼球がうまく動いていないことが明らかとなったため、こうしたことが読み困難に関連しているものと考えられた。

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

「常用漢字の定着を図る。特に漢数字や体の部位を中心に学習をすすめる。」「文章を読むことを通じて表現方法を学ぶことに努める。」ことを目標として、通常の学級で受けることが多かった。

##### (ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

マルチメディア DAISY 教材を用いて、該当する単元を読んだ。また、常用漢字の定着を図るために、粘土をもちいて漢字の「カタチ」のイメージ化を図ることで、書き順や形をとらえることに有用であった。タブレット端末とアプリを用いた漢字の書き順確認を気に入って取り組んでいた。

#### (4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

マルチメディア DAISY 教材によって、読むことに慣れ親しみ、「読むこと」に対する苦手意識が低くなったように感じられた。また読むスピードはゆっくりであるが、文章を読むことを理解し、表現方法につなげようとする姿勢は見られた。このことは指導前後で STRAW-R の音読の流暢性の向上と URAWSS II の文章の内容理解の向上に現れている。

## 【国語－ 7】

実践事例：高等学校 1 年生 / 実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・話の要点に気を付けて聞くことが難しい。
- ・筋道を立てて話すことが難しい。
- ・漢字を覚えられない、正しく書くことが難しい。
- ・送りがなに注意して書くことが難しい。
- ・文法の理解が難しい。
- ・接続詞のある文章を書くことが難しい。
- ・自分の考えをまとめて書くことが難しい。
- ・物語文を読むことに興味が乏しい。
- ・ローマ字表記の読み書きが難しい。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 □情緒障害 ■LD (学習障害) □ADHD (注意欠陥/多動性障害)  
□その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること □聞くこと □話すこと □読むこと □書くこと ■動くこと  
□コミュニケーションをすること ■気持ちを表現すること  
□落ち着くこと・集中すること □概念(時間、大きさ等)を理解すること  
□学習(計算、推論等)すること □その他

コミュニケーション力は高いが、心情理解は苦手としている。場の空気を読み会話することが出来るが、まじめで冗談などが言えないようである。手先の巧緻性に課題があり、筆圧も高い。文章は書いてある通りに受け止める。行間を読むのは苦手である。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019 年 12 月

##### (2) 実態把握の方法(実施者・方法)

対象生徒の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解URAWSS II、②STRAW-R、③自尊感情測定尺度(東京都教職員研修センター, 2011)、④ATLAN(適応型言語能力検査)、⑤TobiiX2-30R アイトラッカー(Tobii Technology 製)での視機能評価、⑥DEM(眼球運動発達検査)という6種のアセスメントを教科指導法研究事業運営協議会のメンバーが実施した。

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

物語文における登場人物の心情理解が苦手としている。また、小論文作成時も全体構成が苦手であるため、最後まで書ききらないことがある。

#### (2) つまずいている背景・原因

実態把握で行った検査の結果より、読み能力や語彙能力に大きな遅れはないため、心情理解の困難さは、自閉症スペクトラム障害の影響があるものと考えられる。

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

通常の学級では特に支援は実施しなかった。

##### (ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

指導教員が対一指導を行った。比較的、筆者の心情が書かれている評論の文章を中心に事実と筆者の主張を分け、図解化するよう試みた。その際に、これまでは自分の解釈を盛り込むことがあったので、文章内に書かれていることのみで表現するように指導した。

#### (4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

文章の心情理解が苦手であったものの、文章の内容のみで筆者の心情や対となる主張、具体例等を図で整理することで、自分の考えによる解釈やこだわりを軽減することにつながり、評論の文章から筆者の主張を抜き出せるようになった。この指導例ではマルチメディア DAISY 教材等の音声教材を活用することができなかつたため、今後活用することで、自ら課題に取り組む姿勢やテストの点数の変化等を明らかにしていきたい。

## 【社会－１】

実践事例：小学校３年生 ／実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・地名・人名の漢字の読み書きが難しい。
- ・地図帳の中の文字が読みにくい。
- ・地図や資料等の中から必要なことを読み取り、考察することが難しい。
- ・社会科見学後に見学してきたこと、調べてきたことをまとめる、表現することが難しい。
- ・調べ学習に最後まで集中して取り組むことが難しい。
- ・必要な資料を選択することが難しい。
- ・社会事象と地理的環境等、相互の関連の理解が難しい。
- ・地図、グラフ等の見方がわからない。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと  
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること  
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること  
学習（計算、推論等）すること その他

〔生活・学習の活動において全般的な遅れがみられる。〕

#### 2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019年6月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

対象児童の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解URAWSSⅡ、②STRAW-R、③自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター、2011）、④ATLAN（適応型言語能力検査）、⑤TobiiX2-30R アイトラッカー（Tobii Technology 製）での視機能評価、⑥DEM（眼球運動発達検査）という6種のアセスメントを教科指導法研究事業運営協議会のメンバーが実施した。

#### 3. 指導内容

##### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

知らない言葉が多く、読みで困ることがある。

(2) つまづいている背景・原因

ATLANの結果より、小学校1年生程度の語彙力のため、地名・人名の漢字の読み書きが難しい。地図帳の中の文字が読みにくい。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

通常の学級において、3年生用教科書「わたしたちの和泉市」をマルチメディア DAISY 教科書で使用できるようにしていた。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

通級指導教室において、読めない文字があれば質問することを大切にした。特にテストの時には必要に応じて代読をしている。

内容理解に、マルチメディア DAISY 教科書の読み上げ機能を有効に活用した。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

本人によるマルチメディア DAISY 教材の印象的評定によると①読むことが楽になった。

②漢字を正しく読めるようになった。③文章を正しく読めるようになった。④文章がわかりやすくなった。⑤勉強したことを復習しやすくなった。⑥文章を覚えやすくなった。

⑦自分から、文章を読むようになった。⑧前より勉強が楽しくなった。と評価している。

社会見学、活動には積極的に参加した。その中で十分に学習内容を理解することができていた。むしろ、グループの困っている友達に優しく助言する姿が見られた。

テストになると読めない漢字があり、担任から読み上げてもらうことで取り組めた。内容理解は十分にできていた。

難しい内容も代読があれば理解することができる。また、学力は通常の学級の児童の平均レベル以上に達している。



## 【社会－2】

実践事例：小学校4年生 ／実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

日本の都道府県名や大阪府の市町村名の漢字を読み書きすることが難しい。

地名・人名の漢字の読み書きが難しい。

地図帳の中の文字が読みにくい。

地図や資料等の中から必要なことを読み取り、考察することが難しい。

専門的な語彙を含む文章を読むこと、理解することが難しい。

社会科見学後に見学してきたこと、調べてきたことをまとめる、表現することが難しい。

調べ学習に最後まで集中して取り組むことが難しい。

必要な資料を選択することが難しい。

社会事象と地理的環境等、相互の関連の理解が難しい。

地図、グラフ等の見方がわからない。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）

その他

##### (2) 子供の困難さ

見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと

コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること

落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること

学習（計算、推論等）すること その他

4年生という学年は、抽象語彙が多くなり同音意義の熟語が増えたことで本人の中で混乱することが少なくなかった。それで、熟語の意味理解を確認して、熟語の使い方を習熟していく課題がある。4年生で学習する200字以外の日本の都道府県名の漢字の読み書きも学習することになり漢字学習が増えた。それで、覚える漢字が増え、形も難しく覚えることに負荷がかかっていた。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019年6月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

対象児童の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解URAWSSⅡ、②STRAW-R、③自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター、2011）、④ATLAN

(適応型言語能力検査)、⑤TobiiX2-30R アイトラッカー(Tobii Technology 製)での視機能評価、⑥DEM(眼球運動発達検査)という6種のアセスメントを教科指導法研究事業運営協議会のメンバーが実施した。

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

日本の都道府県名や大阪府の市町村名の漢字を読み書きすることが難しい。

地名・人名の漢字の読み書きが難しい。

地図帳の中の文字が読みにくい。

#### (2) つまずいている背景・原因

STRAW-R等の結果から、カタカナを読むことに苦手さがあるのと、語彙が3年生程度である。

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

都道府県の名前を覚え地図上の位置を覚えたり、都道府県名の漢字を読めるようになったり、大阪府の地図や市町村の特色をだいたい理解したりすることを目指した。また、副読本「わたしたちの暮らし」をマルチメディア DAISY 教科書で読むことでだいたいの内容を理解することを目指した。

##### (ii) 個別指導について(取り出し指導、通級による指導との連携など)

通級指導教室で以下のような内容を指導する。

- ・マルチメディア DAISY 教科書の音声を聞く。
- ・地図や図を拡大してみる。
- ・地名や人名の確認をして、漢字でも読み書き練習をする。
- ・プリントの地図を見ながら地名の漢字を確認して練習する。
- ・通級による指導で人名や地名などの漢字練習や地図の位置と地名のマッチングなどの学習もしている。

#### (4) (3) の効果・評価(児童生徒の様子や変容および授業の評価)

副読本「わたしたちの暮らし」をタブレット端末で学習する時は意欲的だが学校独自のテストプリントでは意欲的に取り組めなかった。

4年生の1学期は、毎朝腹痛と頭痛を訴えて登校しぶりがあったが、3学期は腹痛や頭痛を訴えることなく機嫌よく登校できていた。

## 【理科】

実践事例：小学校3年生 / 実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・観察記録をとることが難しい。
- ・必要以上にさわり、破損する等、実験器具の扱いが難しい。
- ・実験結果を表やグラフにまとめることが難しい。
- ・実験や観察の結果から分かることをまとめることが難しい。
- ・見通しをもって観察、実験することが難しい。
- ・自然現象や科学的事柄等を関連付けて考えることが難しい。
- ・最後まで集中して観察や実験を行うことが難しい。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症  情緒障害  LD (学習障害)  ADHD (注意欠陥/多動性障害)  
 その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること  聞くこと  話すこと  読むこと  書くこと  動くこと  
 コミュニケーションをすること  気持ちを表現すること  
 落ち着くこと・集中すること  概念(時間、大きさ等)を理解すること  
 学習(計算、推論等)すること  その他

本を読んでいるときに、目を細めて見たり、目を大きく見開いたりして、読みにくそうである。学力テストのように初見の文章があるテストではマルチメディア DAISY 教科書による読み上げまたは代読が必要である。学年が上がると、さらに読み方の難しい文字が増え、図や写真だけでは理解につながりにくい。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019年6月

##### (2) 実態把握の方法(実施者・方法)

対象児童の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解 URWSS II、②STRAW-R、③自尊感情測定尺度(東京都教職員研修センター, 2011)、④ATLAN(適応型言語能力検査)、⑤TobiiX2-30R アイトラッカー(Tobii Technology 製)での視機能評価、⑥DEM(眼球運動発達検査)という6種のアセスメントを教科指導法研究事業運営協議会のメンバーが実施した。

### 3. 指導内容

#### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

本人の話し方がゆっくりであり、教科書の読み取りも時間がかかる。理科は図、写真があるため、理解につながりやすいが、観察記録をとることが難しい。また、実験結果を表やグラフにまとめることが難しい。

#### (2) つまずいている背景・原因

本を読むとき・白いチョークで書かれた黒板の文字などを書き写しているとき・鮮やかな色（赤一色など）を見るときに疲れやすい。

#### (3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

##### (i) 授業における全体指導、個への指導について

通常の学級においてもマルチメディア DAISY 教科書を活用し、観察や実験に取り組み、理解が進んだ。

##### (ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

読めない文字があれば質問する姿勢を大切にした。

#### (4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

本人によるマルチメディア DAISY 教材の印象的評価によると①文章がわかりやすくなった。②勉強したことを復習しやすくなった。③文章を覚えやすくなった。④自分から、文章を読むようになった。⑤前より勉強が楽しくなった。と評価している。常に大変まじめで手を抜くことなく学習に意欲的に取り組んだ。グループ学習では困っている子を支援しながら共に学習した。学力は通常の学級の児童の平均レベル以上に達している。

## 【外国語－１】

実践事例：中学校１年生 ／実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・単語を正しく発音することが難しい。
- ・文章を流暢に読むことが難しい。
- ・bとdのような、似ている文字で、読み書きの間違いが起きやすい。
- ・ローマ字の読み方と混同する。
- ・単語の意味や読み方がわからないため、単語練習を繰り返すことが難しい。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと  
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること  
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること  
学習（計算、推論等）すること その他

丁寧に字を書くことが難しいので、それに関係して直線を書くことも難しい。バランスも崩れてしまうので漢字を書かせると左右、どちらかが極端に大きくなる。マスを使用せず罫線だけのノートなどになると左に寄ってしまうこともある。マスも罫線もなにもないと字ごとの大きさもバラバラになってしまうこともある。

#### 2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019年6月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

対象生徒の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解 URWSSⅡ、②中学生の英単語の読み書きの理解 URWSS-English、③STRAW-R、④自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター、2011）、⑤ATLAN（適応型言語能力検査）、⑥TobiiX2-30R アイトラッカー（Tobii Technology 製）での視機能評価、⑦DEM（眼球運動発達検査）という7種のアセスメントを教科指導法研究事業運営協議会のメンバーが実施した。

#### 3. 指導内容

##### (1) 教科における学習上のつまづきの内容

アルファベットを読むこと、書くことが困難であり、苦手意識をもっていた。また、英語について学習した内容を問うと「習っていない」と答えていた。

(2) つまづいている背景・原因

STRAW-R の検査内にある RAN 検査の結果より、文字を音に変換することが非常に苦手であること、DEM 検査の結果より、眼球がうまく動いていないことが明らかとなったため、こうしたことが読み困難に関連しているものと考えられた。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

「アルファベット大文字・小文字の学習をすすめる。」「日々の質問(時間、曜日、日付)に答える。」「ローマ字を使って手紙を書く。」「英語の歌を通じて、前置詞や代名詞の理解をすすめる。」「週1回のALT授業においてゲームを通じて英会話に慣れ親しむ。」を目標とし、通常の学級で授業を受けることもあった。

(ii) 個別指導について(取り出し指導、通級による指導との連携など)

英語の教科書(1年時)のマルチメディア DAISY 教材を使ってアルファベットの読み、フォニックスの確認をした。また、ALTの先生に来ていただいて授業(週1)、ゲームを通して単語や文章の学習をした。また、「中学英単語 1850(Gakken)」をマルチメディア DAISY 化したものを提供し、単語練習に活用した。単語にはルビをつけた。

(4) (3) の効果・評価(児童生徒の様子や変容および授業の評価)

指導開始当初は、書くことやつまづきがあるとそこから取り組もうとしなかったが、指導時期中盤から終盤にかけて、授業中も落ち着いて、学習に取り組むことができるようになっていく。また、マルチメディア DAISY 化した教科書は1単語ごとにフレーズを区切り、フリガナがついていたため、それを繰り返し聞くことで、自信をもって発音できるようになった。よって、英語に対する苦手意識は低くなったようである。「中学生の英単語の読み書きの理解 URAWSS-English」の結果から、指導前後で音声読み上げやカタカナ表記によって、単語の意味理解の正答率が向上しているため、マルチメディア DAISY 教材を活用した効果が現れている。

## 【外国語－２】

実践事例：中学校２年生 ／実施機関：国立大学法人大阪教育大学

### ●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・単語を正しく発音することが難しい。
- ・文章を流暢に読むことが難しい。
- ・bとdのような、似ている文字で、読み書きの間違いが起きやすい。
- ・ローマ字の読み方と混同する。
- ・単語の意味や読み方がわからないため、単語練習を繰り返すことが難しい。

### 【指導例】

#### 1. 対象とした児童生徒の実態

##### (1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）  
その他

##### (2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと  
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること  
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること  
学習（計算、推論等）すること その他

ひらがなは読めるものの、正しく書くことは困難である。カタカナや漢字は読みの習得もできていないので、書くことも困難である。本人も書くことに苦手意識をもっている。聞くこと、話すことは読むこと、書くことと比較してそれほど困難ではないため、文章を読み上げがあれば、ある程度文章の内容を理解することが可能である。

#### 2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

##### (1) 実態把握の時期

2019年6月

##### (2) 実態把握の方法（実施者・方法）

対象生徒の在籍する学校で、個別学習時間を用いて、①小中学生の読み書きの理解URAWSSⅡ、②中学生の英単語の読み書きの理解URAWSS-English、③STRAW-R、④自尊心測定尺度（東京都教職員研修センター、2011）、⑤ATLAN（適応型言語能力検査）、⑥TobiiX2-30R アイトラッカー（Tobii Technology 製）での視機能評価、⑦DEM（眼球運動発達検査）という7種のアセスメントを教科指導法研究事業運営協議会のメンバーが実施した。

#### 3. 指導内容

##### (1) 教科における学習上のつまずきの内容

もともと書くことが困難であるため、アルファベットを書くことが困難である。アル

ファベットは覚えることも困難な様子である。そのため、単語も覚えることが困難である。

(2) つまづいている背景・原因

STRAW-R の検査内にある RAN 検査の結果より、文字を音に変換することが非常に苦手であること、DEM 検査の結果より、眼球がうまく動いていないことが明らかとなったため、こうしたことが読み困難に関連しているものと考えられた。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

「英語そのものに興味をもち、内容理解をする」ことを目標として、全ての授業を通常の学級で受けた。板書はタブレット端末で撮影した後、撮影した画像に要点を書きこんだ。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

定期テストの際は、試験時間の延長、テスト問題の拡大とともに、教科指導法研究事業運営協議会のメンバー4名を中心に、定期テストをマルチメディア DAISY 化し、タブレット端末で再生することで、自らテストに取り組んだ。また、「中学英単語 1850 (Gakken)」をマルチメディア DAISY 化したものを提供し、単語練習に活用した。単語にはルビをつけた。2019 年度用英語整理と研究 (廣濟堂あかつき株式会社) の第 1 学年の内容をマルチメディア DAISY 化して提供した。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

指導開始当初は、単語などが理解できていないので、全く授業についていけなかった。ペア学習時も他の生徒と行うことが困難であるため、担当教師とペア学習の様子を見ているだけのことが多かった。しかし、話すこと、聞くことは、読むこと、書くことと比較してもそれほど困難ではないため、繰り返す単語を聞くことで英語の発音が上手になったり、聞くことによって単語の意味を答えることのできる単語が増加したりした。また、マルチメディア DAISY 化した教科書は 1 単語ごとにフレーズを区切り、フリガナがついていたため、それを繰り返し聞くことで、自信をもって発音できるようになった。これは指導前後に実施した「中学生の英単語の読み書きの理解 URAWSS-English」の結果にも表れている。定期テストは指導期間の中盤にマルチメディア DAISY 化したものを使って取り組んだものの、点数に大きな差はなかった。アセスメント結果は、指導前後で向上しているため、今後は教科学習にどのように活用するか検討していくことが必要である。